「誰の権利?自分の権利!子どもの権利」(人権課題:子ども)

1 学習のねらい・人権教育の視点

- (1) 「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」で定められている権利について理解するとともに、 権利の主体者としての自覚をもつ。
- (2) 具体的な事例について考えることを通して、児童虐待などの人権侵害に対する意識を高めるとともに、自他の人権を大切にし、守ろうとする意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 児童虐待については、生徒に当事者がいる可能性を考慮し、状況把握や展開について配慮が必要である。
- (2) これからの人権尊重の社会づくりに向けて、意見表明権については権利そのものについての説明だけでなく、具体的な事例を挙げて仕組みやルールに関心をもち、積極的に社会づくりにかかわっていこうとする意欲や態度を養う。
- (3) 子どもの権利については、4つの「一般原則」から捉えることもできる。

(日本ユニセフ協会)

3 展開例

展開例							
学習活動	指導上の留意点、使用する資料						
「子どもの権利」とはどのような権利だろうか。							
1 「子ども」に必要な権利を考える。	 ○「『子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)』の4つの権利」や巻末資料から、具体的に子どもの権利の内容を理解させる。また、子どもの権利条約の対象が18歳未満であることを確認する。 ○ 子どもは、権利の主体であることや、意思表明が認められている「参加する権利」の大切さに気づかせる。 						
「子どもの権利」が侵害されている事例にはどのようなことがあるだろうか。							
2 右ページのグラフ「子ども権利に関する人権上の問題」から考える。	○ グラフの各問題について補足しつつ、授業では「児童虐待」に着目させる。 左ページの県内の虐待関係のグラフから増加傾向に気づかせる。相談件数の多さについては、社会の関心の高まりについても言及する。						
3 児童虐待について、左ページ(1)~(8)のケースについて、子どもの権利の 4 つの分類のどれが侵害されているか、問題点を考える。	○ いずれのケースも、右ページ「虐待の4類型」に該 当する問題点がある。気づかない場合には解説等を 行い注意を促す。						
年々増加する児童虐待に対して、できることは何だろうか。							
4 自分や身近な人が困っていたり、助けを必要と	○ 右ページの相談窓口や「189 番」を周知し、相談や						

子どもの権利について、気づいたことや今後の生活に生かしていこうと思うことを考えよう。

5 子どもの権利について、気づいたことや今後の 生活に生かしていこうと思うことを記入する。

したりしている時にできる対応を考える。

○ 権利の主体者としての自覚をもち、人権侵害の解 決や社会のあり方に積極的にかかわることが大切で あることに気づかせる。

通報は高校生でも可能である事を確認する。

誰の権利?自分の権利!子どもの権利

		, – 0	/ () () ()	,		
	年_	組	番	名前		
1「子どもの権利」とはどのような権利のことをいうのだろうか。						
対家	(「子ども」は何歳まで?)・内容(どんな権利?大人になくて子ども	に認め	られてし	1ることは?	つなど	
3 ((1)~(8)のケースについて、問題点を考えよう。					
	問題だと思う理由や、どんな権利が侵害されてい	ハるか	考えて	みよう。	虐待の類型	
(1)						
(2)						
(3)						
(4)						
(5)						
(6)						
(7)						
(8)						
4 自分や身近な人が困っていたり、助けを必要としたりしている時、どのような対応ができるだろうか。						
	.3 0					
					_	
5 子どもの権利について、気づいたことや今後の生活に生かしていこうと思うことを記入しよう。						